

適正な価格形成に関する協議会
第3回米ワーキンググループ 議事要旨

令和7年4月15日（火）

○全国農業協同組合連合会 藤井 米穀部長

コスト調査の結果を受け算出したコスト指標について、各段階のコストを算出し、変動率に着目することで、今後価格交渉のトリガーとして活用できて良いのではないかと思います。その上で、コスト指標の基準として政府統計などの公表値を使用することに特段違和感はないが、産地や銘柄、また規模ごとに様々なコストの値がある中で、最初に基準とする値は大切になると思う。

例えば、令和4年米の生産費統計を元に玄米1kg当たりの生産費を調査し算出した173.8円のコスト指標の値は、令和4年産の生産者コストである。この値を下回ったら生産者は営農を継続できないということであり、持続的な供給のためには、この最低限の値を割ってはいけないということを理解する必要がある。

また、将来に向けた投資、雇用が続かないと営農の継続は難しいと思うので、指標の基準になるものを確定する際は考慮頂きたい。

○ホクレン農業協同組合連合会 駒形 米穀事業本部 米穀部長

現状、私たちも取引先と交渉する際は、生産費統計を活用して機械への投資額を加えて算出したり、家族労働費の必要水準について見直しや価格変動項目は変動率を乗じて価格協議の基礎としているため、今回のコスト指標を策定し、変動率を乗じる算出方法は受け入れやすい。今後コスト指標の基準年の設定の仕方や内容等については、現状私たちが行っている見直しの内容を一つ一つ議論できれば良いのではないかと思います。

また、労働力不足に伴いスマート農業への投資は北海道でかなり広がっている。労働力が不足する中で、大規模だけでなく、太宗の農業者がカバーできるよう、規模が小さくても意欲のある人の経営や投資を支えることが、担い手の確保に繋がり、食料・農業・農村基本法に位置付けられた食料安全保障の確保に繋がっていくものと考えている。

○全国主食集荷協同組合連合会 山口 米穀販売部長

去年の夏、コスト指標作成のために国が実施したコスト調査では、主産県の組合に国等から直接調査を依頼し、そこからさらに組合員となる主な集荷業者に依頼をしていたと承知している。調査内容は私たちにも事前に連絡がされていたが、調査の実施がどのタイミングだったのか、どのくらい細かい資料が提出されたのか、どの資料の提出を嫌がったのか等、その後の調査状況は聞いていなかった。今年度も同様の調査をする場合は、早めに調査依頼の連絡をしてもらえたら、去年よりかはスムーズに対応してもらえと思う。

また、コスト指標作成団体とは、どのような団体をイメージしているのか。例えば米穀機構や米麦改良協会のようなところなのか。教えていただきたい。

○伊藤忠食糧 佐藤 執行役員 米穀本部長代行

米の生産コストは年々変動するため最新のコストを反映する必要がある。物流費、エネルギーコスト上昇など現行の経済状況を考慮することが重要。

米のコストの把握に活用可能なデータ例で、卸売について売総、販管費、営業、経常利益を上げられているが、会社により人件費含めコストの試算が異なり、例を挙げると製造費であればフレコンか否か、物流費であればチャーター有無、センター一括納品か店舗直納か、などでコストが変わってくる。コスト指標作成に当たっては調査対象、方法が一貫していることが重要。

○東京都米穀小売商業組合 須賀 理事長

サプライチェーンの各段階でどのコストに重きを置くかが異なるため、色々な意見が出てくると思うが、米の安定供給をどうやって達成していくか議論していきたい。

安定供給のためには、小売、卸、集荷、生産、それぞれの段階のコストについて煮詰めていく必要がある。基準値を使ってコスト指標を作るうえでは、しっかりとした基準値を作してほしい。

一方で、コストはとても大事だが、同時にとてもデリケートなもの。秘密保持の重要性は本 WG でも共有した方がいいのではないと思う。

○わらべや日洋食品株式会社 新川 購買部 米調達担当部長

例えば山形のつや姫を仕入れるにあたり、A の JA と B の JA で価格が異なる場合、もちろん安い方を買いたい。そういった場面において、安定供給のためには、どの価格が最低ラインになり、どうやって判断するのか。判断できない場合、コスト指標があることで、かえって「もっとこの費用を削れないのか」という粗探しのツールになってしまうのではないかと危惧している。コスト指標はそういう使い方ではなく、持続可能な米生産のためのツールということを我々自身が理解しないと、先ほど述べたような使われ方をしてしまう可能性があると感じる。

実際、弊社も米を調達する際、コストの中身は気になっている。まして今は相場によって、ものすごく価格が変わっている状況でもあり、コストの基準値をお示しいただくことを、非常に望んでいるが、どのようにコスト指標を運用していくのかはきちんと想定しないといけない。

○日本スーパーマーケット協会 江口 構成員代理

資料にあるコスト指標ですが、様々なコストの上昇を受けて適切な価格転嫁は必要だと考えている。ただ我々は消費者と直接接している業界でもあり消費者に買っていただくことが第一。これは川上川下関係なく、最終的に売れなければ、どんなにコストを反映してもあまり意味のないことで、まずは買っていただくかなければならない。そのためお客様に買っていただける値頃感を大切にしている。価格転嫁できるところは転嫁するけれども、全てを転嫁するのではなく、サプライチェーン全体で努力することによってコストを少しでも下げる方法を考えることもやらなければならない。コスト指標作成においては、こういうバランスがとれるような作り方が必要なのではないか。

○全国スーパーマーケット協会 村尾 事務局長

前回も話をさせていただいたが、コスト指標という考え方自体の意味はわかるものの、原価構成において原料原価率の高いものと加工コストの高いものと大きく二つに意味合いが分かれると

思っている。今回の資料にある令和4年産のコストと、今の相対の取引価格のベースとなっているコストを比べたときにきちんと説明できるのか。原材料の比率が高いものほど、「相場」というコストとは違うものが入ってくる。モノが充足されている時に生産者を最低限守るような、もしくは川上から川下にかけて各段階の事業者全体で供給の流れを滞らせないようなコストの積み上げが必要なのではないか。

現在の米の取引事情が落ち着いた後の市場はどうなるのか、生産者は耐えられるのか。生産者がきちんと営農を継続できるように、今後の持続性・継続性も含めた価格決定の議論がされているのか疑問に思っている。

全コストのうち製造コストの割合が高い商品は、製造のノウハウや稼働率が原価の構成に大きく影響する部分があると思う。一方で農産物や例えばチーズといった輸入製品は、原材料がそのまま販売価格のようになっているため、為替や現在のような相場の価格の影響を非常に受けやすい。そういう需給のバランスが変わったときの価格形成の方法が違う商品群についても議論が必要なのではないか。

○日本生活協同組合連合会 説田 第一商品本部 農畜産部米穀グループマネージャー

今回用意していただいた資料に関していえば非常に詳細な話であったうえ、コスト指標をしっかり調べたものであったということで、我々の中で非常に役立てられるような資料であると率直には思っている。ただそのうえで、実際に運用するとなった場合に、精度とどういった区分けをして詳細なものにするのかという議論が必要ではないか。その整理が無いと、法的なコストという見方だけをされて、どのような使われ方をされるのか分からないというようなことが、充分起こりうる話だと思った。

それと米のコスト指標はどこで公表されるイメージなのか。というのも、今回の調査では、令和4年産の北海道・東北産の結果が示されており、5キロに換算した小売価格は1,768円になる。公表されたコスト指標そのものを消費者が適正な価格だと捉えたとしたら、それが店頭の価格と異なっていた場合にどういう受け止め方をするのか、気になるところである。じゃあこの価格差はなんなのかという指摘の対象に当然なるのではないかと思うし、マージンをどのくらい取っているのか、どの段階でとっているのか、色々指摘が入ってくる可能性があるのではないかと思う。そのためどのような公表の仕方をするのか、というのが重要なポイントになってくるのではないかと思った次第である。価格がどうにもこうにも低い段階で、本当のコストはこれだけの価格なのだという情勢であればそれは非常に説得力があるものだとは思いますが、仮に価格が高騰している段階のときにはどういう受け止め方をされるのか。

○全国消費者団体連絡会 郷野 事務局長

米の価格形成にあたり持続的な供給に要する合理的な費用が考慮されること、またその際の指標として、今回の別冊資料等にあるコスト調査のような結果が活用されていくことに関して異論はない。消費者としてはコストの把握や指標の明確化を議論することと同時並行で、現在起こっている米不足問題や備蓄米放出、米の価格高騰についても消費者の生活を左右する重大問題であるので、ぜひこちらの方にも目を向けて頂きたい。

全国消費者団体連絡会では、昨年9月から米の供給状態・価格などに関する任意の調査を実施している。その結果から首都圏でも地域によっては市場価格に大きな開きがあることが分かった。

また、備蓄米の販売については、今現在のところ、特定のスーパーや小売店等に限られていて、どの店でも公平に置かれているという状況ではないと感じており、今後広く流通していくことを期待している。流通する以上は、誰にでも平等に備蓄米の購入機会を確保してほしい。

消費者は、暮らしている地域にかかわらず1年を通して納得できる価格で米を購入できることを望んでいる。将来的な日本の米生産と併せて、ご飯が主食の生活が守れるよう、改正基本法による新たな農業政策の実現に向けた策の具体化について広い視野と連携の姿勢で進めるべきだと思う。

○主婦連合会 山根 常任幹事

コスト指標を反映した適正な価格形成については、消費者としてもとても大事であり期待している。温暖化や、どうしようもない資材の高騰によるコスト負担が一部の者に偏ることのないよう、そして適正な価格形成が農業の持続可能性の向上に資するものになって欲しいと思っている。

品目指定の話で、値ごろ感をもっている品目、言わば「価格の優等生」と呼ばれるような品目も、コスト転嫁が進めば仕方ないが無くなっていく。消費者も価格の意味や背景を理解して、購買行動をすることが大事だろうと思う。

とは言え、今回のような大きな米価格の高騰というのは問題で、主食の米に関しては何とかしていただきたいと思う。

コスト指標が粗探しのネタにならないように、例えば地場流通を増やすことで流通の費用を抑制するとか、何かサプライチェーンに特徴を持たせるようなことができるような議論をして、取引条件の適正化ということをぜひ頑張って進めていっていただければと思う。

○日本惣菜協会 大隅 常務理事（協議会構成員 黒田副会長代理）

資料のコスト調査結果では、段階別のコストのうち「生産」の比率が一番高く60%以上を占めている。これは一例だが、大規模農家と小規模農家では生産コストが大きく違うと理解している。ラーメン屋さんで言えば、3席しかないラーメン屋さんと、30席あるラーメン屋さんでは当然固定費、比率が違ってくる、損益分岐点も変わってくる。そういった意味で、コストの基準を平均で作成した場合には、そのコストに当てはまらない事業者がたくさんあるのではないかという気がする。

経営規模と損益分岐点の関係等について、今の日本の農業がどうなっているのか、一回調べるべきではないかと思う。

○日本農業法人協会 井村 副会長

資料を大変良くまとめていただき感謝。皆様の色々な声を聞いて生産者として少しでも効率化を図って、私たちの努力で下げられるコストは下げて、国民の皆様に安定的になるべく安価で供給できるようにしたいと改めて思う。一方で私たちの努力では下げていけない機械費や肥料代と

いったものが非常に多くて、こういったものを毎年客観的に皆様にみていただいて、私たちのコストというものを意識していただける機会になることは、すごくありがたいと思う。

エガリム法ではコストを調査する団体が複数あったと思うが、米のコスト指標作成団体は複数存在するイメージか。あるいは1つの団体が定期的に変わっていく、または恒久的にずっとやっていくイメージなのか。

コスト調査と同様の実施手法でコスト指標を作成する際には、中山間地・平場、産地、規模によって違うところをどのようにまとめていくのが課題と思う。

コスト指標の作成に対する調査・協力について、私の知る限り、生産者からは協力的に数字を出してもらえる感触だ。

○株式会社ミツハシ 笹山 執行役員 精米事業本部長 兼 米穀部長

コスト調査について、搗精歩留まりに関する指標があるのか。ご存じのとおり令和5年産の歩留まりが歴史的に悪くて、その説明に卸は相当苦慮したと思う。これを示すものが残念ながら資料にはなかった。ここ数年の天候不順の中で歩留まりが非常に高いということがない、ということを見ると、今後も歩留まりに対する検討が必要ではないかと感じる。

コスト指標はいつどのタイミングで共有されるのか。米の値段は、収穫直後に色々な価格交渉をする機会が多い。商いが閑散となった時期にコスト指標が出てきてもあまり使えないし、はたまた1か月や2ヶ月遅れてきた情報が出てきた場合も、そのときにはもう次のステージになっていたりするため、この指標をいつどのようなタイミングで使うのかというのも業者間の話の中で重要になってくると感じる。

根本的に需給が緩んだときのセーフティーネット的にこの指標が使われるかと思うが、我々卸の立場からみていくと、米が余ったときはコスト度外視でとにかく在庫をさばいていかないと、翌年米を買えないという現実的な問題に直面することがある。おそらく値崩れが起きるときは、米が余っている時に卸等の米を持っている方が、損してでも安く売って翌年に備えようとする時だと思う。その時には、残念ながらこの指標は逆に示さずに、実際に売れる値段で話をしてしまうのではないかと感じる。したがって、そもそも需給が崩れない方法をどうやって考えるかという大きな問題もあると感じる。